

上毛新聞社



取材内容

- 会社概要、沿革、特徴
- すまいる一ぷにおける取り組み
- 今後の展望



会社概要

代表者名/代表取締役社長 北村幸雄（平成27年6月9日就任）

事業内容/日刊新聞発行、書籍出版、各種イベント、インターネット関連

創刊/明治20年11月1日

資本金/3,648万円（非上場）

年間売上高/82億8,600万円（平成27年3月期）

販売部数/30万2,187部（平成27年4月現在）

従業員数/男287人 女97人 計384人（平成27年4月現在）

会社概要

- 朝刊のみの発行で、発行部は約31万部。県内普及率は4割を超え、読売新聞や朝日新聞を抑えて最も購読されている。関東の地方紙としては、栃木県の下野新聞とともに、全国紙を上回るシェアを持つ数少ない新聞である。
- 太田市に総局を置き、高崎市、東京都、大阪府に支社を展開している。

沿革

- 1887 前橋市曲輪町（現在の同市大手町）で第1号を発行
上毛野国の2字をとり「上毛新聞」と名付けた。
- 1964 前橋市古市町の現在地に新社屋を移転
- 1996 本社ビルおよび高崎支社を新築
- 2009 伊勢崎市三和町に新工場「上毛新聞印刷センター」完成
- 2011 ジュニア新聞「週刊 風っ子」創刊、読者クラブ「風っ子」発足
- 2012 セクション印刷の取り組みで日本新聞協会技術委員会賞を受賞 創刊125周年
スマートフォン専用アプリ「上毛新聞AR」開始
- 2013 有料携帯サイト「じょうもばいる」開始

特徴① ツイン方式

- ・「ツイン方式」と呼ばれる紙面展開が大きな特徴である。

政治、経済、社会などのニュースを掲載する「本紙」と、スポーツ、芸能、テレビ欄などをまとめた「上毛スポーツ」の2部構成となっている。

こうすることで家庭での、お父さんが新聞を会社に持って行って、家にいるお母さんと子どもがテレビ欄を見られないという事態を防ぐことができるのだ。

- ・テレビ欄は紙面の中で一番需要がある。上毛新聞社では地元・群馬のことを太字でテレビ欄に記載することも行っている。

特徴②地ネタ主義・地域活性化

- 県内関連のニュースを最優先にした紙面づくりが大きな特徴。
1面トップは群馬関連のニュースを掲載している。
- 県内外の取材網をフル活用することで、政治・経済・文化・スポーツ・地域の話題などを幅広く取り上げ、伝えている。
- 「ぐんまマラソン」や「ぐんまイノベーションアワード(GIA)」などのイベントを開催することで、地域活性化にも貢献している。

すまいるーぷにおける取り組み

“すまいるーぷの広報担当”

「価値のある取り組みを多くの人に伝えたい」

良い取り組みをしても、知られなければその輪は広がっていかない。

そのような思いから、すまいるーぷの動向を取り上げている。

今後の展望

- 今後もすまいる一歩における取り組みを大きく、分かりやすく伝えていく。

ex) バケツ一杯運動、はるな郷での連携事業

- 若い人に関心を持ってもらう社会の実現を目指していく。



取材協力者・取材者一覧

- 取材協力者

- 阿部 和也 様

- 取材者

高崎経済大学 大宮ゼミ

- 金井 麻未

- 上岡 愛実

- 高橋 尚之